

## 『21世紀の水景』

株式会社ウォーターデザイン 代表取締役社長  
大根川 孝 (日本水景協会前会長)



人々に「潤いと安らぎ」を与える水景は、高齢化社会の到来やエコロジーに対する関心の高まりから、緑とともに快適な空間演出に欠かせない要素になりました。

そして最近、水空間に対する関心が、景観はもとより災害に役立つ機能として高く評価され、さらに滝や噴水がヒーリング効果をもたらすことにも注目が向けられています。

また水音による騒音の解消や、地球温暖化やヒートアイランド現象に対する負荷軽減の上からも建築広場空間など都市部再開発へ水景の導入が積極的に図られており、都市環境のエコアップにつながる施設として期待されています。

水景が災害に強い都市をつくり、都市環境の悪化を緩和するといった社会に寄与する施設として進化しつつある今、それを裏付けるデータ収集と都市における水のネットワーク化に向けてのアピール、そして水が育む生命は、人のみならず自然の小さな生命をも生み育むといった環境共生としての水景を確立してゆくことが日本水景協会に課せられた急務であり、これら多彩な需要に「進化した水景」として応えるため、協会では今後に向けて

新たなテーマを設定しました。

「潤いの水、感動の水景、いつでも、どこでもそしてみんなで」を合言葉に、アート・テクノロジー・エコロジーの三位一体のもと、人々が楽しく快適に過ごすことができる「水に活かされた空間づくり」を目指しています。

今後のさらなる水空間に求める多様化、技術の進化、多才な演出効果、防災機能としての役割など、これらの課題を会員相互の技術交流のもとで具現化の推進を切望致します。

